

水稻新品種「はぎのかおり」

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	松永, 和久
巻/号	46巻11号
掲載ページ	p. 522-522
発行年月	1991年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



水稻新品種「はぎのかおり」

松 永 和 久

登録番号：水稲農林314号 系統名：東北144号 交配組合せ：
東北125号(コガネヒカリ)×古2986(みやかおり)／東北125号

特 性 の 概 要

「はぎのかおり」は香り米の安定多収品種である。出穂期及び成熟期は「みやかおり」より遅くササニシキ並で、育成地では中生の晩である。「みやかおり」に比べ、稈長はやや長く、穂長はやや長く、穂数は同程度で、草型は中間型である。

耐倒伏性は「みやかおり」並のやや弱である。短芒が少程度生じ、稈先色は褐色であり、顔色は褐色で「みやかおり」より淡い。

いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pi-a* と推定される。葉いもち・穂いもち抵抗性はともにやや強であり、「みやかおり」と比較すると、葉いもちにはやや強く、穂いもちには同程度である。障害型耐冷性はササニシキ、「みやかおり」よりやや強く中である。

収量性は高く、普通品種のササニシキとほぼ同程度で「みやかおり」に明らかに優る。玄米の外観品質は「みやかおり」より良好で、香りの強さは「みやかおり」と同じで、炊飯する場合の混米率は3～5%が適当である。

栽 培 上 の 注 意

多肥では香りが低下する傾向がみられるので、極端

な多肥栽培は避ける。香りの消失を防ぐため、適期刈り取りに努め、高温による急激な乾燥は避ける。

奨励品種採用地帯：東北地域中南部の平坦地、宮城県の平坦部。

命名の由来：米の美しさと上質な香りを代表的な秋の花である「萩」にたとえた。

育 成 後 記

多様化する消費者ニーズに対応する多様な米づくりの一環として、宮城県内では生産者団体による香り米の産地づくりが始まっている。

昭和58年に当场で育成した「みやかおり」は、香り米としては多収品種であるが、収量性は普通品種の90%程度であり、さらに中生の早で耐冷性が弱いため、近年障害型冷害の被害を受けることが多く、安定生産が可能な香り米品種が求められてきた。

「はぎのかおり」は昭和47年当時、一般品種の半分程度の収量であった香り米の在来品種を、一般品種並に多収化し、香り米の育種の基本的な目標を達成した品種である。

農水省のスーパーライス計画にも供試され、種々の用途向けの試験がなされている。その中のK製菓の試験では、「はぎのかおり」は煎餅にすると焼き上がりが大きく、香りがほどよく残り、大変よい煎餅ができるそうである。このように新たな香りを生かした製品

の開発による需要拡大が期待される。

育成従事者：佐々木武彦・阿部真三・松永和久・岡本栄治・丹野耕一・千葉芳則・狩野 篤・永野邦明・植松克彦

(宮城県古川農業試験場水稲育種指定試験地主任)

みやかおりとの調査成績(育成地, 1986~1990年)

品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	玄米重 (kg/a)	同左標 準比率	千粒重 (g)	品質	玄米の 香り
はぎのかおり	8.13	9.30	74	18.4	419	51.9	122	20.9	中中	有
みやかおり	8. 8	9.23	74	18.1	415	42.6	100	21.2	下上	有

Kazuhisa MATSUNAGA: A New Paddy Rice Variety "Hagi-nokaori". 農業技術 46(11), 1991.